



Locatio PNV700M データの往来が実現した 近未来的な造形美

セイコーエプソンのGPS付き端末「Locatio PNV700M」はデザインから設計までが一貫してCADシステムを用いて行われた。デザイン部まで含めてこの手法をとっている企業は意外に少なく、これは非常に珍しいケースだ。

技術者とデザイナーの理想的な作業環境

エプソンでは「Pro/ENGINEER」というハイエンドCADをデザイナーと技術者が共有し、同時進行的に開発を進めて（コンカレントエンジニアリング）いる。これにより、デザイナーが張った面を技術者が仕上り時を想定して、さらに

美しく張り直し、両者で確認するという理想的な作業環境が実現している。この手法の成果は、高性能なアンテナが入っていることを連想させる“おでこ”部分の美しい3次元曲面処理や、レンズ周りの複雑なのにすっきりした処理などに大きく現れているように思う。これらは2基のカードスロット、カメラ、GPSアンテナ…など多くのパーツが配置された内部の狭苦しさも上手に包み隠している。

やや残念なのがヒューマンインタフェースの弱さだ。シャッターボタンは小さすぎて直感的に理解できず、アイコンや文字での表現もない。また表面の蓋を開けたとき

のホールド感も芳しくない。

カラーリングに関しては左側面部の色が市場の動きと合っていない気がするが、ほかの部分は良く出来ており、特にフロストの蓋は、閉じているときの未来感のある表情にぞくぞくさせられる。

それにしてもこの製品を覆う表面のカーブの破綻のなさは特筆すべきものがある。際立って個性的というわけではないが、21世紀を感じさせるデザイン。デザイナーの美的センスと技術者の造形センスの良さ。その両者がCADデータとしてシームレスに行き来していることが、最終製品の美しさにつながっているように思える。



短いペンについて「ユーザーの不便になるコスト削減は出来れば避けたい」と担当エンジニアは残念がっていた。

親指がフィットするくぼみが付いているものの開いたフタが手にあたりホールド感が悪い。

PROFILE ● 酒井俊彦(さかいとしひこ)

サカイデザインアソシエイツ代表。87年東京造形大学卒業。通産省選定グッドデザイン賞、アビターレイテンが展覧(伊)、1995デザインの現在展(加)ほか。